

野村証券  
 フィデューシャリー・マネジメント部  
 木須 貴司

## 確定拠出年金専用ファンドの動向(2021年3月)

2020年度第4四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は8兆868億円となりました。第1~3四半期に続いて、株式などのリスク性資産が上昇し、残高は増加しました。収益率をみると、内外株式、不動産(上場REIT)やマルチアセットなどの収益率がプラスとなりました。資金流入をみると、確定拠出年金専用ファンド全体に当四半期で1,518億円が流入しています。資産クラス別では、海外株式型への資金流入が最も多く、711億円が流入しました。

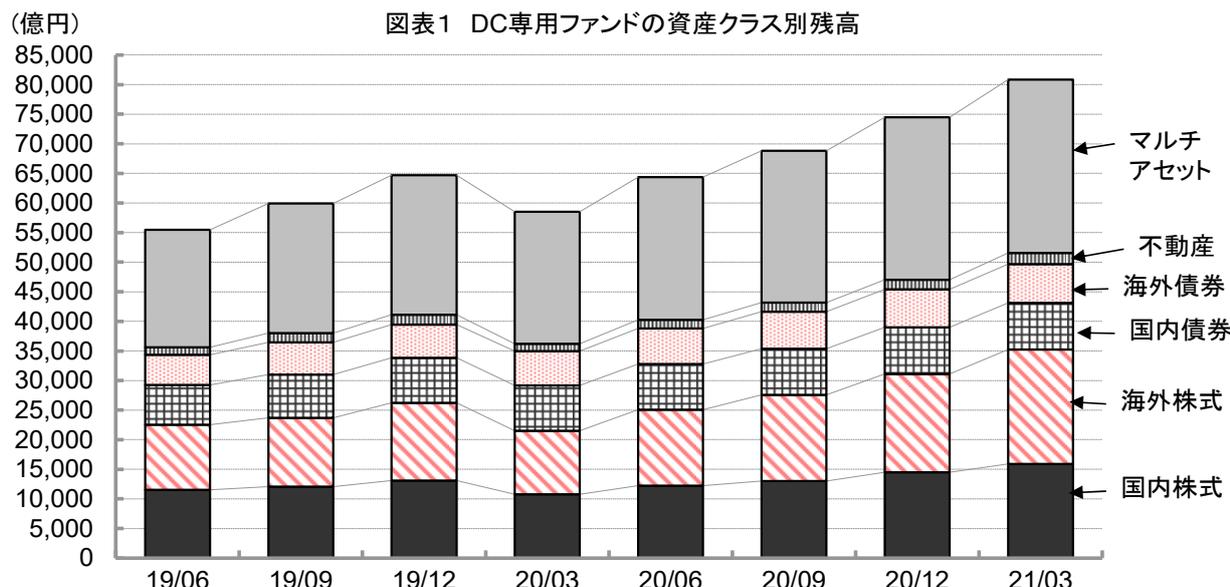
### 確定拠出年金専用ファンドの残高

2020年度第4四半期(1月~3月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信の残高は8兆868億円と、第1~3四半期に続いて好調な株式市場の影響を受けて、前四半期から8%程度、1年前と比べて38%増加しました(図表1)。

国内債券以外の資産の残高が増加し、最も増

加率が高かったのは海外株式の16%でした。国内株式も株価上昇により11%増加しています。

資産クラス別残高構成をみると、マルチアセット型の割合が引き続き最も高く、全体の36.2%を占めています。マルチアセット型の中では、主に資産配分が固定されているバランス型が中心となっています。



出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ43.6%、17.8%となり、前四半期と比べて、前者は1.9%増加、後者は1.4%低下しました。株式ファンドの時価が増加したためです。2020年3月末と比べると株式ファンドの比率は6.9%増加しました。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、29.4%と、前四半期に比べ0.6%減少しています。海外資産を中心に運用するファンドは、前四半期から1.1%増加し、32.1%となっています(マルチアセットなどのハイブリッド型はいずれにも分類していません)。

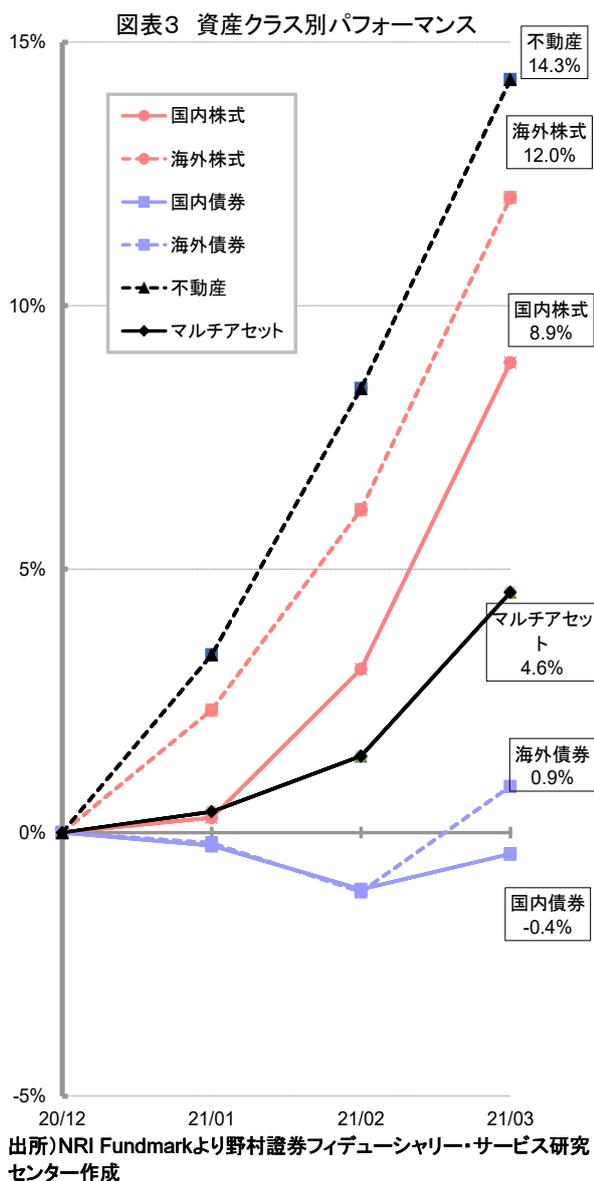
さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は76.8%となり、前四半期と同水準となりました。2020年度は、アクティブファンドがパッシブファンドと比べて好調で、年度通期では、パッシブの比率は1.4%低下しました。新規のDC向けアクティブファンドが設定されたことなども影響しているとみられます。

図表2 DC専用ファンドの資産クラス別残高(億円)

	19/06	19/09	19/12	20/03	20/06	20/09	20/12	21/03
国内株式	11,544	12,063	13,113	10,808	12,224	13,026	14,478	15,899
アクティブ運用	4,259	4,390	4,755	3,814	4,331	4,719	5,296	5,786
パッシブ運用	7,286	7,673	8,358	6,994	7,893	8,307	9,182	10,113
海外株式	10,989	11,621	13,104	10,688	12,871	14,569	16,625	19,356
アクティブ運用	2,331	2,380	2,681	2,218	2,721	3,101	3,579	4,104
パッシブ運用	8,658	9,241	10,423	8,470	10,150	11,468	13,046	15,252
国内債券	6,727	7,320	7,615	7,643	7,688	7,777	7,888	7,865
アクティブ運用	981	1,005	1,008	1,003	1,002	1,013	1,022	1,018
パッシブ運用	5,746	6,316	6,606	6,640	6,686	6,764	6,866	6,846
海外債券	5,082	5,441	5,607	5,837	6,017	6,288	6,422	6,563
アクティブ運用	561	578	584	587	605	624	632	636
パッシブ運用	4,521	4,863	5,023	5,250	5,412	5,664	5,790	5,927
不動産	1,265	1,586	1,690	1,229	1,424	1,499	1,616	1,895
マルチアセット	19,837	21,887	23,573	22,344	24,140	25,684	27,458	29,245
バランス型	16,839	18,690	19,810	18,626	20,067	21,361	22,874	24,396
ターゲットイヤー型	397	429	474	460	554	620	679	768
アセットアロケーション型	2,601	2,768	3,289	3,258	3,520	3,703	3,906	4,081
その他	41	43	44	43	47	46	46	47
<b>残高合計</b>	<b>55,486</b>	<b>59,961</b>	<b>64,746</b>	<b>58,592</b>	<b>64,410</b>	<b>68,888</b>	<b>74,534</b>	<b>80,868</b>
残高割合								
国内株式	20.8%	20.1%	20.3%	18.4%	19.0%	18.9%	19.4%	19.7%
海外株式	19.8%	19.4%	20.2%	18.2%	20.0%	21.1%	22.3%	23.9%
国内債券	12.1%	12.2%	11.8%	13.0%	11.9%	11.3%	10.6%	9.7%
海外債券	9.2%	9.1%	8.7%	10.0%	9.3%	9.1%	8.6%	8.1%
不動産	2.3%	2.6%	2.6%	2.1%	2.2%	2.2%	2.2%	2.3%
マルチアセット	35.8%	36.5%	36.4%	38.1%	37.5%	37.3%	36.8%	36.2%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。



### 分類別パフォーマンスの推移

図表3は2020年度第4四半期におけるファンド資産クラス別累積投資収益率の推移です。この四半期は、経済再開への期待感が高まり、株式などのリスク性資産が好調でした。その結果、国内株式の収益率は8.9%、海外株式の収益率は12.0%となりました。

また、今四半期は国内株式、海外株式いずれもパッシブファンドの収益率の平均がアクティブファンドの収益率の平均を上回りました。これまで好調だったグロース(成長)株運用戦略が今四半期は苦戦したためと考えられます。2020年度累積ではアクティブの方がパッシブファンドのパフォーマンスを上回っています。

マルチアセット型については、平均すると4.6%の収益率となりました。リスク水準が高い商品ほど高い収益率となりました。不動産(REIT)は、株価上昇の影響を受け、14.3%と最も高い収益率となりました。

国内債券、海外債券は、金利が上昇し、現地通貨ベースではマイナス収益となりました。しかし海外債券はドル高円安の影響で収益率は0.9%とプラスとなりました。

### 分類別資金純流入額の推移

図表4は、2019年度第4四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額－解約額)の推移を表したものです。

図表4 DC専用ファンドの資産クラス別資金純流入額(億円)

	20/01~ 20/03	20/04~ 20/06	20/07~ 20/09	20/10~ 20/12	21/01~ 21/03
国内株式	68	131	42	-96	137
海外株式	491	597	434	256	711
国内債券	70	84	78	112	9
海外債券	186	123	161	90	84
不動産	-36	117	22	30	46
マルチアセット	1,113	663	548	436	532
資金純流入合計	1,891	1,719	1,287	829	1,518

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

当四半期の純流入額は前年同期(前年度の第4四半期)に比べると373億円低下し、1,518億円となりました。最も資金流入額が大きかったのは海外株式で711億円と前年度の第4四半期の資金流入額を219億円上回りました。好調な海外株式市場へのDCの加入者の注目が高まったものと見られます。

— 次号のお知らせ —

次号は

**5月24日(月)**

発行予定です。

#### 野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込み)(20万円以下の場合、2,808円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

#### 野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号  
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

弊誌の記事はバックナンバーも含めて野村年金マネジメント研究会のホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

編集:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、野村資本市場研究所

発行:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター(野村年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2  
アーバンネット大手町ビル

TEL: 03 (6703) 3991 FAX: 03 (6703) 3981

Email: [nenkin@jp.nomura.com](mailto:nenkin@jp.nomura.com)

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。